

今週（8月10日から8月14日）の短期金融市場動向

●無担保コール市場

今週の無担保コールO/N物は、引き続き資金調達ニーズは旺盛で、出合いの中心は0.97%台後半となり、特段の変化なく推移した。

ターム物に関して、ショートターム物を中心に1.0～1.1%程度と、横ばい圏での出合いが見られた。ロングターム物では四半期末を跨ぐ期間での資金調達ニーズが見られているものの、9月の日銀政策決定会合での利上げ観測の高まりから、オファーサイドからは運用レートを引き上げる動きが散見されており、出合いは限定的となった。

日銀当座預金残高は、10日は419兆円台からスタートし、12日に財政等要因で1.7兆円程度減少。14日には年金定時払い等により8兆円程度の増加となり、426兆円程度での着地となる見込み。

●債券レボ市場

今週の債券レボ市場GC T/N物の出合い水準は、1.005～1.01%で推移した。参加者のしっかりとしたoffer姿勢が見られ、週を通して高めのレートで安定して推移した。

SC取引の個別銘柄では、2Y470～486回、5Y170～186回、10Y360～383回、20Y180～197回、30Y70～91回、40Y13～19回などで引合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、3Mゾーンと1Yゾーンが軟調に推移した。

14日に実施された3M物入札では無難な結果となったものの、セカンダリーでは小甘く推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、石油・石炭製品やその他金融などの業態で大型発行が行われた。

市場残高は、週を通して25兆円台後半で推移した。

発行レートは、引き続き1.0%以上で推移しており、銘柄や期間により投資家の運用目線にばらつきがみられた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均株価 (円)	新発10年国債 利回り (%)	為替 (ドル/円 中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レボレート (T+1 ON・%)	日銀当座預金残高 (億円)
8/10 (月)	66,970.22	2.805	157.94	0.977	1.000	4,191,400
8/11 (火)						
8/12 (水)	67,524.06	2.850	159.35	0.977	1.000	4,174,700
8/13 (木)	68,308.59	2.870	159.34	0.977	1.000	4,170,800
8/14 (金)	68,713.80	2.875	159.38	0.977	1.000	4,256,100

翌週（8月17日から8月21日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー（※米国については、政府機関閉鎖の影響に留意する必要がある。）

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
8/17 (月)	*4-6月期の実質国内総生産速報値(内閣府 8:50) *7月の業態別日銀当座預金残高(日銀 17:00)		
8/18 (火)		5Y物 8/19発行 25,000億円	*7月の米鉱工業生産
8/19 (水)	*6月の機械受注統計(内閣府 8:50)	TDB1Y物 8/20発行 28,000億円	*7月のユーロ圏消費者物価指数改定値 *米FOMC議事要旨
8/20 (木)	*7月の貿易統計(財務省 8:50)	20Y物 交付税借入 8/21発行 8/31借入 7,000億円 12,000億円	
8/21 (金)	*7月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) *実質輸出入の動向(日銀 16:00頃)	TDB3M物 8/24発行 37,000億円	*ジャクソンホール経済シンポジウム(~23日) *8月の米PMI速報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/17 (月) 日銀予想	400	1,900	2,300	国債補完供給	200		200	2,500	TDB3M発行▲37,000 償還44,000 流動性供給▲2,500
8/18 (火) 弊社予想	700	▲1,000	▲300	被災地支援	▲100		▲100	▲400	
8/19 (水) 弊社予想	300	▲28,300	▲28,000	全店共通(固)	▲8,000		▲8,000	▲36,000	5Y発行▲25,000
8/20 (木) 弊社予想	▲400	27,000	26,600				0	26,600	TDB1Y発行▲28,000 償還32,000 エネルギー対策借入▲5,076 期日3,028
8/21 (金) 弊社予想	▲700	▲11,500	▲12,200				0	▲12,200	20Y発行▲7,000

●短期金融市場の見通し

無担保コールON物は、引き続き資金調達ニーズが堅調とみられ、0.975～0.978%程度の出合いが中心となる見通し。ターム物については、ショートターム物では横ばい圏での出合いが継続するとみられるが、9月の決定会合を通過する期間ではレートは上昇方向に推移するとみられる。債券レポ市場は、GC T/N物のレートは0.99～1.01%程度の水準で推移することが見込まれる。短国市場は、19日(水)に1Y物、21日(金)に3M物の入札が予定されている。CP市場は、五・十日発行を控えており、発行案件がどの程度膨らむか注目される。

来週の主要なイベントとして、国内では17日(月)に4-6月期の実質国内総生産速報値、7月の業態別日銀当座預金残高、19日(水)に6月の機械受注統計、20日(木)に7月の貿易統計、21日(金)に7月の全国消費者物価指数、実質輸出入の動向などが公表予定である。海外では18日(火)に7月の米鉱工業生産、19日(水)に7月のユーロ圏消費者物価指数改定値、米FOMC議事要旨、21日(金)にジャクソンホール経済シンポジウム(~23日)、8月の米PMI速報値などが公表予定である。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をお読みください。